

9. 商業活動と出版文化

2025.11.20.大橋 幸泰

はじめに

本日の対象／「10 商人の活動と交通」、「13 知と書物の広がり」

→近世の商業とそれとともに展開した出版文化／近世期の商業とその周縁の特質を考える

1. 永原健彦「10商人の活動と交通」

(1)教科書における交通・流通史

高校教科書における交通・流通に関する説明／分散して叙述されているので、全体像をつかみづらい

→理解に困難な事例

①豪商、②交通制度、③水運、④大坂と蔵屋敷、⑤享保の改革と米価、⑥株仲間の解散

*近世期に限ったことではなく、時代を越えた問題／たとえば、中世の商業と近世の商業など／通史とテーマ史の矛盾

(2)歴史研究としての流通史

研究史上、幕藩制市場構造の成立と解体に関心が集中

a.成立(17C 前)：石高制の原則／年貢米換金の必要性から藩は中央市場(上方)と結合

b.解体(18C 後-19C 前)：大坂廻米による米価下落／領主財政の悪化という悪循環／加えて、新興商人の台頭／三都の地位低下

→水運における**賃積み廻船(菱垣廻船・樽廻船)から買積み廻船(北前船・内海船など)への転回**、への注目／ただし、近世後期における三都の地位や賃積み廻船の比重はなお大きい

(3)これからの教科書における交通・流通史記述

今後、交通史・流通史叙述に求められる点

a.幕藩制市場の形成と解体に関する事項をきめ細かく叙述すること

b.交通運輸史と商品の生産・流通・消費を通して叙述すること

c.観光史の視点

2. 引野亨輔「13知と書物の広がり」

(1)商業出版の成立をめぐる日本史教科書の叙述

教科書叙述の特徴

a.古活字版／ヨーロッパ由来のキリシタン版と朝鮮由来の慶長勅版、b.木板整版の復権、c.貸本屋の隆盛

(2)古活字版が日本社会に与えた影響

近世初期の古活字版は一過性の流行か？／知識の独占としてのみとらえると、近世における商業出版との連続性が見えなくなる

→**活字を組み合わせる新技術の登場は、新しい内容の盛り込みを可能にした**／平仮名交じり文の出版へ

→和文体(仮名草子・浮世草子)の文芸作品を、木板整版印刷により多数出版／商業出版へ

(3)日本史における商業出版の成立とその複雑性

世界各地で商業出版が隆盛した経緯

a.ヨーロッパ／15C グーテンベルクの活版印刷術による聖書出版

- b.中国／古代より、科挙の受験参考書の需要が商業出版を後押し
c.日本／古代・中世では、販売を目的とした印刷物はなし／科挙が導入されなかったことが要因／読書人口は上層部のみ
→商業出版がいつから展開したかは、それぞれの社会状況と密接に関係

日本における商業出版の成立は近世／村請制による村の自治が根底／領主は村の自治に依存して年貢を徴収
→識字能力の獲得／当初は村政を担う村役人／次いで民衆的読者の増加
→近世初期、檀林の整備による仏教書の出版／中期以降、通俗書を商品とする商業出版の隆盛へ

(4)貸本屋と出版文化の浸透

- 書肆(書物出版・販売の業者)の隆盛／ただし、三都以外は少数
→都市と村を結ぶ行商人が書物の扱いを開始／やがて専門の貸本屋が登場／常設店舗を持たない巡回型営業
*近世中後期の文化状況／貸本屋の活躍や識字能力の向上をどの時期の文化として叙述するのが適切か？
a.宝暦・天明期／書物文化の受容拡大の契機として位置づける
b.文化・文政期／近世秩序の緩みを背景として位置づける

3. コメント

1990 代、商業・流通史、書物史研究の画期

- *生産と収取に限った経済史から生産物やその周縁にも目配りした経済史へ

(1)商業・流通史研究の転回

幕藩体制を支える商業・流通が動揺・崩壊する要因の解明
→民間社会の成長の一環として、北前船・内海船などへ注目

17C 前、幕藩制市場構造の成立／幕藩権力の都合により形成された流通

- 換金のため、藩は年貢米など諸物資を蔵屋敷のある大坂へ送付／大坂に集積された諸物資は全国へ流通
→18C 中以降、商品経済の展開に呼応して、地域経済の中核となった在郷商人や新しい流通の登場／産地と消費地の直接取り引きが活発化／民間が担う市場構造の構築
→大坂や御用商人の地位の相対的低下／幕藩権力の経済力が衰退
→幕藩制市場構造の動揺・崩壊とともに、資本制市場構造の形成へ

(2)書物・読書への注目

村方文書における書物に注目／長い間、文書目録では「雑」の項目に一括して記載
→近世中後期、村の有力者の家に多量の蔵書が形成
→近世は「古典」が成立した時代／古代・中世に誕生した文学作品が多くの人に読まれるようになる
→書物を通じて思想形成が促された時代／農業技術も口伝から農書によって伝えられる

おわりに

近世は民間社会の時代／幕藩権力がつくる秩序とは別の民間の活力が広がり、新しい秩序を形成

【テキスト】

牧原成征編『日本史の現在 4 近世』(山川出版社、2024 年)

【参考文献】

斎藤善之『海の道、川の道』(山川出版社、2003 年)

若尾政希『書物の時代 読書がひらいた日本近世』(岩波書店、2025 年)

【付記】

- ・明日までに、Hoppiiie にて講義記録の提出を求める。
- ・小レポート提出期限 12 月 17 日：小レポートを提出した者が試験(2026 年 1 月 8 日)の受験資格を有する。